

千葉さまと茶井戸

今はこの場所も周囲に木々がうつそうと茂り、落葉に隠れ、だれにも気がつかれなくなっていました。

四百年以上の昔、うしろの山に千葉のお殿さまがお城（本佐倉城）を構えていらっしやる頃、この地には、それはきれいな水がこんこんと湧いていました。

その味は、甘くて大変おいしかったので、お殿さまは毎日この水でお茶をたてるのを楽しみにしていました。

それからこの場所は、「千葉さま茶井戸」とよばれるようになったということです。

《千葉氏と本佐倉城の沿革》

千葉氏は、桓武天皇の嫡流として平安時代末期の大治元年（一一二六）より戦国時代末期の天正十八年（一五九〇）まで有力大名として下総国を支配した武士団です。

鎌倉時代初期には、千葉郡を本貫として千葉氏の所領は最盛期を迎えました。その広がりには、北は東北、南は九州まで及んでいました。

しかし、関東の戦乱や千葉氏の内紛の中で本拠地を千葉猪鼻山から佐倉（現在の本佐倉根古谷地域）に移すことになりました。

内紛後に家督を継いだのは岩橋殿とよばれていた輔胤で、この輔胤が文明年間（一四六八〜一四八六）に本佐倉城を築城したと考え

られています。

これ以後、本佐倉城は、天正十八年（一五九〇）、小田原攻城戦で北條氏とともに敗れ、豊臣秀吉に滅ぼされるまでの百有余年にわたり、千葉氏宗家の居城でした。

この間、城主として、下総守護千葉介、十九代輔胤より二十七代重胤までの九代が在城しました。

城の規模は、中世城郭としては圏内最大級であり、東西約七百メートル、南北約八百五十メートルに内外郭群が広がっています。周囲一・五キロメートル四方には城下集落が集まり、これらや田を除く城跡の面積は、約二十ヘクタール、中心部分は、約八ヘクタールと大きなものです。

城跡は、現在でも遺構の保存状態が非常に良いため、戦国時代を知る貴重な文化財となっています。